

第38回生命情報科学シンポジウム

第38回国際生命情報科学会 (ISLIS) 学術大会

【ミニシンポ】「人間の幸福のための心理学」

2014年8月24日(日)午前(90分)

山梨県 北杜市・

増富温泉峡 ヴィンテージ家族楽園大学 本会議B会場

- 座長:いとうたけひこ(和光大学)
- 4.【研究発表】人間の幸福に貢献するメディアとは?:米国の911から311の日本への問題点と課題 いとうたけひこ
- 2.【研究発表】与える喜びに支えられる持続可能な幸福:東日本大震災のPTG研究より 尾崎真奈美(相模女子大学)
- 1.【報告】「与える喜び」をとおして幸福を実現する「森になる」運動
河野秀海(森になる)
- 3.【研究発表】在宅看護にいかすエネルギーフィールドへのケアーヒーリングタッチの効果 中ルミ、天野博、いとうたけひこ
(NPO 国際ヒーリング看護協会)

人間の幸福に貢献するメディアとは？

—米国の911から311の日本への問題点と課題—

いとうたけひこ（和光大学）

shimoebi@gmail.com [URL:www.itotakehiko.com](http://www.itotakehiko.com)

キーワード：テロ、災害、情報、戦争、メディア、リテラシー、謀略、世論、操作、風評

第38回生命情報科学シンポジウム

第38回国際生命情報科学会（*ISLIS*）学術大会

【ミニシンポ】「人間の幸福のための心理学」④

2014年8月24日（日）午前（90分）

山梨県 北杜市・増富温泉峡

家族楽園大学 本会議B会場

第1部 311原発 報道は視聴者をどこに導くのか？



この動画は存在しません。

"古館伊知郎 報道ステーション..."
この動画は、TV-Asahi Corp. から著作権侵害の申し立てがあったため削除されました。

『報道STATION』ではスペシャル番組として、去年の12月28日の夜、原発の検証の番組をお送りしました。津波で原発が壊れたのではなく、それ以前の地震によって一部、(福島)第1原発のどこかが損壊していたのではないかと、その追求をしました。今回、このスペシャル番組で、その追求をすることはできませんでした。“原子カムラ”というムラが存在します。都会はこことは違って目映いばかりの光にあふれています。そして、もう一つ考えることは、地域で、主な産業では、なかなか暮らすのが難しいというときに、その地域を分断してまでも、積極的に原発を誘致した、そういう部分があったとも考えています。その根本を、徹底的に議論しなくてはいけないのではないのでしょうか。私はそれを、強く感じます。そうしないと、今、生活の場を根こそぎ奪われてしまった福島の方々に申し訳が立ちません。私は日々の『報道STATION』の中でそれを追求していきます。もし圧力がかって、番組を切られても、私は、それはそれで本望です。(『報道ステーション』2012年3月11日古館伊知郎キャスターの番組終了直前の発言)

出典：日刊サイゾー http://www.cyzo.com/2012/03/post_10113.html

本間(2012, pp.198-199にも引用あり)

<http://blog.goo.ne.jp/raymiyatake/e/cddcd653275afb688d3df2470a8> (消された動画)

メディアの基本概念 = 8つのキーコンセプト

カナダ・オンタリオ州教育省(1992)

(鈴木みどり (編) (2004) 新版Study Guide メディアリテラシー: 入門編 リベルタ出版)

- (1)メディアはすべて**構成されている**。
- (2)メディアは「**現実**」を構成する。
- (3)**オーディエンス**がメディアを解釈し、**意味**を作り出す。
- (4)メディアは**商業的意味**を持つ。
- (5)メディアはものの**考え方(イデオロギー)**や**価値観**を伝えている。
- (6)メディアは**社会的・政治的意味**をもつ。
- (7)メディアは独自の様式、芸術性、技法、**きまり／約束事**をもつ。
- (8)**クリティカルにメディアを読む**ことは、創造性を高め、多様な形態でコミュニケーションをつくりだすことへとつながる。

原発：報道と生活のはざま

- 尾崎・甲田(2012)が指摘するように、原発被害の報道が規制された一方で、政府の発表やマスメディア特にテレビにより放射線の安全性が過剰に強調されたため、逆に視聴者に疑心を生む結果となった(Ito, 2011キプロス)。
- これはパニック神話(広瀬広忠)、
- 根拠の無い楽観主義(社会心理)、とともに風評被害()、
- 「日本人は困難の中でも秩序正しく助け合っている」という災害ユートピア(訳書)も一方では日本人の文化的特性として喧伝された。
- しかし、放射線の二次被害すなわち、土地・地域・家族・学校などの関係性の崩壊が深刻であることが子どもの作文にも現れている(Ito, 2014)。報道されないことに対するマクロなメディアリテラシーが必要である(いとう, 201???)。

Allport (南訳1952, pp40-「デマはなぜ流れるか」)

- 廣井脩 流言とデマの社会学 東京：文藝春秋，2001.8. - (文春新書；189) pp176-184「風評被害」
- 有名な公式、すなわち、「基本法則」はデマの量は、(当事者にとっての)重要度 × (証拠の)曖昧さ、の(足し算ではなく)掛け算の答え(=積)に比例する
- 清水幾太郎 流言蜚語 流言蜚語 / 清水幾太郎著 東京：筑摩書房，2011.6. - (ちくま学芸文庫；[シ26-1]) 関東大震災との比較

★“Panic myth” belief by the Government パニック神話

- A prejudice that claim the actual disaster information dissemination will cause the panic among people
- 災害情報を流すことによってパニックが起こるといって根強い偏見（岡本1992、広瀬2004、1999吉川）（＝政府、東電の立場）
- パニック神話により、Allportのいう「曖昧さ」が増大して、疑心暗鬼になり、結局政府・自治体は一般庶民の信頼を失う結果となる。

★松田美佐 2014 うわさとは何か：ネットで 変容する「最も古いメディア」 中公新書

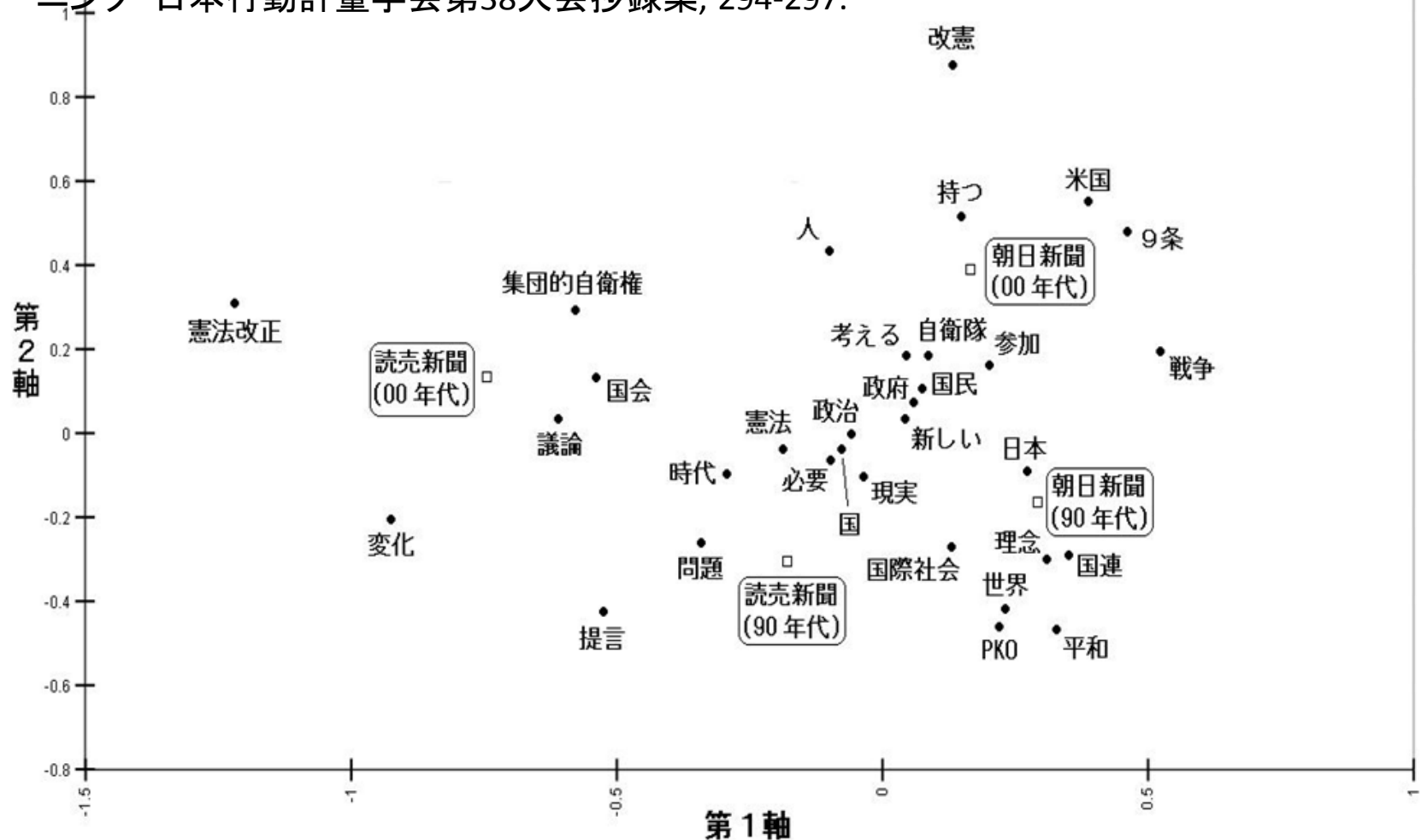
- デマ、流言、ゴシップ、ロコミ、風評、都市伝説…。多様な表現を持つうわさ。この「最古のメディア」は、トイレットペーパー騒動や口裂け女など、戦後も社会現象を巻き起こし、東日本大震災の際も大きな話題となった。事実性を超えた物語が、人々のつながり=関係性を結ぶからだ。ネット社会の今なお、メールやSNSを通じ、人々を魅了し、惑わせるうわさは、新たに何をもたらしているのか。人間関係をうわさから描く意欲作。(amazon.co.jp 商品の説明)

荻上チキ 2011 検証：東日本大震災の流言・デマ / 荻上チキ著 東京：光文社，2011.5. - (光文社新書；518)

- Pp15-17 「個人のリテラシーだけにたよらない」=我々は「情報弱者」である。「情報強者」でもだまされるばあいあり。リテラシー論の限界がある。・・・個人でリテラシーを高めるのには限界がある。「流言ワクチン」でリテラシーを底上げしよう。
- Pp.17-20. 「流言ワクチン」=流言やデマについての事例を学ぶことにより、「擬似的に騙される」という追体験をする」(風評ワクチンとも)

新聞の立ち位置の違い

- 図1 対応分析:朝日新聞と読売新聞の年代による単語の使い方の特徴
- 大高100924 Ito100924いとう目黒当日用行動計量学会朝日と読売の憲法社説.ppt
- ^{1.2}いとうたけひこ・目黒健太 2010 朝日新聞と読売新聞の憲法記念日の社説のテキストマイニング 日本行動計量学会第38大会抄録集, 294-297.



その後の反原発運動と安倍首相 の海外セールス活動

- この事故をきっかけとして日本国内に反原発の運動が活発になった。
- しかし、日本国政府が再稼働の方針を打ち出し、原発関連会社、大飯原発や六ヶ所村(核燃料処理施設)など原発施設を増設しようとし、
- 海外の国では「安全な」日本の原発技術を売りに出そうとしている。このような政府と原子カムラとよばれる利害関係者の方針を支えているものとしてメディアの役割が大きい。

広告宣伝の圧力

- たとえば本間(2012, p25)によれば、東京電力(以下東電)の2010年度の単独広告宣伝費は269億円で、ローカル企業にもかかわらず全国第10位の金額を投じていた。また各電力会社が加盟する電気事業連合会の2010の原発推進対策費もxxx億円に上っている。これらの潤沢な資金(もともと国民の電気料金)を使って有名タレントやアーティストを起用している(佐高, 2011)。
- 東電の広告の目的は、商品売るためではなく、広告主として新聞や民放などのメディアに原発のマイナスイメージを与える報道をしないためである。メディアの大半は経営基盤を広告収入に頼っているなのでその効果は大きい。本間は、その例として、俳優の山本太郎が原発反対を言ったために番組から降ろされたり、忌野清志郎ひきいるRCサクセションのCD『COVERS』で「サマータイムブルース」や「ラヴ・ミー・テンダー」が収録されていたため、親会社の東芝が原子炉メーカーである東芝EMIが発売中止にした事件をあげている。また、反原発の立場に立つ京大の小出裕章氏や作家の広瀬隆氏などもTVなどのマスメディアには出演が避けられている。

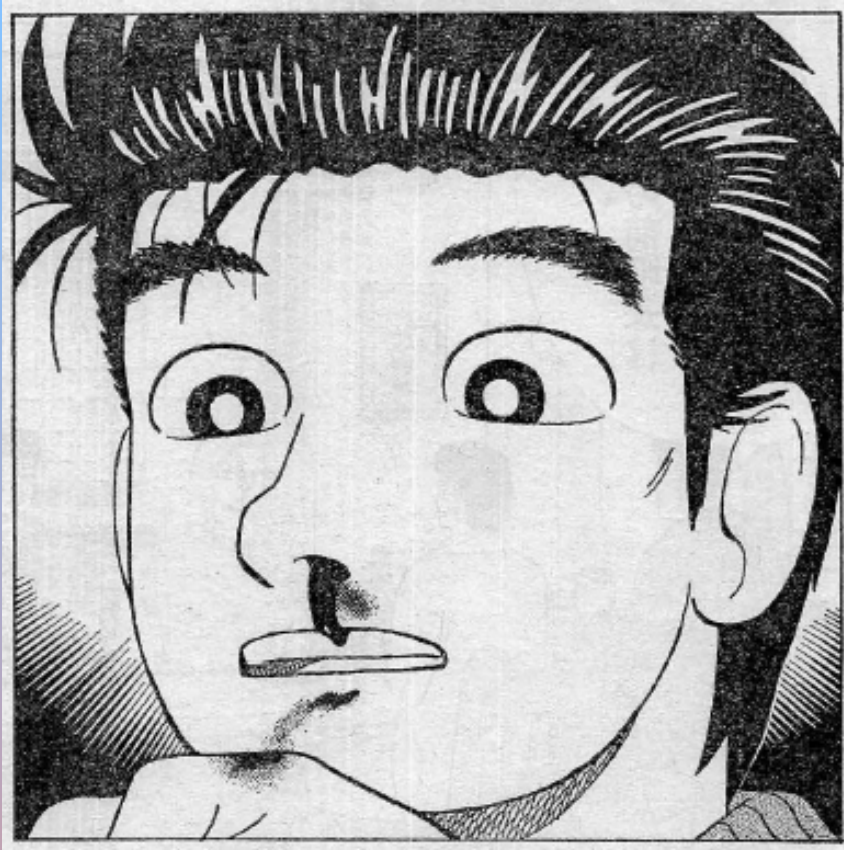
原発推進派

「原子力PA＊方策の考え方」

- 日本原子力文化振興財団原子力PA方策委員会報告書(1991)
- では、原発賛成派を増やすための広報とメディア対策を以下のように論じている。「不美人でも長所をほめ続ければ、美人になる。原子力はもともと美人なのだから、その美しさ、よさを嫌みなく引き立てる努力がいる」のだそうである。

内部被爆と放射能の影響

2014年5月の「美味しんぼ」事件



★ 節電対策(和光大学)

- 2011年夏に原発停止による電力不足に対応するために、計画停電政策が東京を中心とする東京電力関連で実施された。そして、その翌年まで節電キャンペーンが行われた。しかし2013年には節電ということは強調されなくなった。いくつかの試算では既存の火力発電の運用により電力供給の危機は乗り越えられるということがわかってきている。テレビ番組の事前事後テストでは、かなりの学生が電力は余っているという事実を知ったあとで態度を変えている(いとう・村田・杉田, 2013)。
- いとうたけひこ・村田洋平・杉田明宏 2013 東日本大震災後の節電問題についての大学生の批判的思考:節電不要論を主張するテレビ番組視聴後の節電意識の変化 日本発達心理学会第24回大会発表論文集, 198.

第2部 9/11 WTC第7ビル崩壊の謎

- 16:54 英国テレビのBBCがニュース番組で「第7ビル(サロモンブラザーズビルディング)が崩壊しました」とJane Standley特派員とテロップで報告(崩壊の46分前)。しかし、特派員の背景には、崩壊前の第7ビルがはっきりと映っていた。
- <https://www.youtube.com/watch?v=lP2t9nq9fl>



This video was censored by Google Video

WTC 7 "Collapsed" at 5:20 PM.

This report was 20 minutes earlier.

How did the BBC know that it was going to collapse?

And why did they report the collapse when it is clearly standing in the background?

世界貿易センター(WTC)ビルの崩壊経緯

2001年9月11日

8:46	第1ビル(110階建て)の94階と98階の間に旅客機が激突
9:03	第2ビル(110階建て)の78階と84階の間に旅客機が激突
9:59	第2ビルが崩壊
10:28	第1ビルが崩壊
17:20	旅客機が衝突していない第7ビル(47階建て)が崩壊

2015/9/11テロ疑惑国会追及—オバマ米国は変わるか(藤田幸久編著)など参考

2007/02/26 にアップロード

An astounding video uncovered from the archives today shows the BBC reporting on the collapse of WTC Building 7 over twenty minutes before it fell at 5:20pm on the afternoon of more 9/11. The incredible footage shows BBC reporter Jane Standley talking about the collapse of the Salomon Brothers Building while it remains standing in the live shot behind her head. How did the BBC know that it was going to collapse? And why did they report the collapse when it is clearly standing in the background?

prisonplanet.com/articles/february2007/260207building7.htm

佐藤秀男・堀井正明 2010 WTCビルは爆破解体された 週刊朝日 1月22日号 120-123



世界貿易センター(WTC)ビルの崩壊経緯

2001年9月11日	
8:46	第1ビル(110階建て)の94階と98階の間に旅客機が激突
9:03	第2ビル(110階建て)の78階と84階の間に旅客機が激突
9:59	第2ビルが崩壊
10:28	第1ビルが崩壊
17:20	旅客機が衝突していない第7ビル(47階建て)が崩壊

「9.11テロ疑惑国会追及——オバマ米国は変わるか」(藤田幸久編著)など参考

9/11: Blueprint for Truth-The Architecture of Destruction-114min.

ae911truth - 717本の動画 165,333
チャンネル登録 32,229 1,707 128

2010/12/22 にアップロード

This is the full 2 hour version of the original dvd "Blueprint for Truth-The Architecture of Destruction". In 2 hours Richard Gage, AIA of Architects & Engineers for 9/11 Truth takes you through most of the scientific forensic evidence proving beyond a reasonable doubt that the destruction of WTC was accomplished with explosive controlled demolition.

This can be purchased as a DVD at <http://shop.ae911truth.org/DVD-Cased-...>

Preview the New AE911Truth.org 9/11 Documentary 2011 "9/11: Explosive Evidence -- Experts Speak Out": <http://www.youtube.com/watch?v=yIOC1J...>

You can purchase the full length DVD "9/11: Explosive Evidence -- Experts Speak Out" at <http://shop.ae911truth.org/DVD-Cased-...>



<https://www.youtube.com/watch?v=OOgVCj7q49o&feature=kp>

2014年6月17日取得

24-4 【研究3】実験による意見の変容(いとう&大高,)

How Students Changed Their Attitude from the US Government's Official Position to "Conspiracy Theory" A Text Mining Study on Media Literacy

Takehiko ITO Yohei OHTAKA

目的:9.11事件は、今年(2010)で10年目を迎えることとなる。10年が経過した今、我々の記憶としてどのように残っているだろうか。研究3では、WTCビルの崩壊の記憶と映像資料による態度変容に着目した。崩壊原因を飛行機の衝突による衝撃と火災とする米国政府公式見解に対して、制御解体による爆破説を主張するDVD『9/11:真実への青写真』(β版:約58分)を大学生に視聴させ、WTCビル崩壊の原因について、米国政府の公式見解と対立する見解をめぐる意見について、事前と事後でどのような意見の変化が起こるかを確認することが目的である。

方法:対象は学生45人(男子30人、女性15人)であり、2009年12月17日の集中講義において行った。学生には実験の意図を示さず、当該DVDを視聴させる前と後に簡単な調査を行い、WTCビル崩壊の原因をめぐる意見の比較を行う。事前の質問紙の構成は「問1 2001年9月11日にニューヨークの世界貿易センタービル(WTCビル)が崩壊しました。崩れ落ちた建物はいくつでしたか? ;問2 事件を知った時は、何学校の何年生でしたか? ;問3 ビルはなぜ崩れたのでしょうか? その理由を書いてください。」だった。事後テストは問1と問3は同じで、それに加え「問2 あなたはこのビデオ(『9.11真実への青写真』)を以前に見たことがありますか? ;問4 ビデオの感想を書いてください。」を尋ねた。

結果：問1「崩壊ビルの棟数」の事前・事後の回答をTable 5に要約して示した。

正答である「3棟」の答えは、事前テストでは45人中9人(20%)だったのに対して、視聴後には32人(71.1%)に増加した。負の変化2人、正の変化25人、変化無し18人で、研究1や研究2と同様に符号検定を行ったところ、有意な正答率の上昇があった($z = -4.426, p < .001$)。

問2から、9.11事件を体験した学年は、小学4年1人、小学5年4人、小学6年9人、中学1年9人、中学2年12人、中学3年6人、高校3年1人であり、3人は無回答であった。問3「ビル崩壊の理由」の回答のうち、出現頻度が事前・事後の合計が多かった単語(上位9単語)をTable 6に示した。Table 6から、事前においては「飛行機」「突っ込む」「ハイジャック」といった米国公式見解を支持していることが単語頻度からわかる。しかしながら、事後では公式見解への支持が減少し、「爆発」や「爆破」といった制御解体による爆破説を支持する内容に意見が変容している。問3に対する事前・事後による回答は、衝突・火災説を支持する回答を1とし、解体爆破説を支持する回答を3とし、両方の理由やどちらとも分類できないその他の回答を2とコード化し、事前・事後による意見の変容の比較をTable 7に示した。

Table. 5 「崩壊した建物の数」(問1)の正答数の変化

	事後			合計
	正答 (3棟)	誤答 (2棟)	誤答 (4棟以上)	
事前				
正答 (3棟)	7	2	0	9
誤答 (2棟)	23	3	1	27
誤答 (4棟以上)	2	1	6	9
合計	32	6	7	45 (人数)

Table. 6 「ビル崩壊の理由」(問3)の単語数の変化(上位9件)

単語	視聴前 (事前)	視聴後 (事後)	増減	合計
飛行機	29	18	-11	47
突っ込む	23	11	-12	34
爆発	1	12	+11	13
テロ	8	5	-3	13
ハイジャック	9	1	-8	10
WTC	9	1	-8	10
爆破	1	9	+8	10
崩れる	3	5	+2	8
旅客機	5	2	-3	7

Table. 7 ビルが崩れた理由(問3)の意見の変化

	事後			合計
	衝突・ 火災説	中間・両方 その他	解体 爆破説	
事前				
衝突・ 火災説	10	14	14	38
中間・両方 その他	1	4	1	6
解体 爆破説	0	0	0	0
合計	11	18	15	44 (人数)

事前に政府見解側だった衝突・火災説の38人中14人(36.8%)が、視聴後は米政府関与説(隠謀説)寄りである解体・爆破説に意見を変え、意見を変えなかったのは10人(26.3%)のみであった。回答者44人中29人(65.9%)が、DVDの内容に沿った方向に意見が変化した。負の変化1人、正の変化29人、変化無し14人で、符号検定で有意な意見変化の効果があつた($z = -4.930, p < .001$)。視聴後のDVDの感想(問4)を対応分析したところ(Fig.3)、衝突・火災説は「知る+ない」や「メディア」、中間説は「分かる+ない」や「原因」との距離が近く、これらの表現が多かつた。解体爆破説には、「9.11」や「見る」との距離が近いことがわかる。Fig.3における対応分析のそれぞれの軸の解釈について、第1軸は左右において判断の确实・不确实さを表しており、右にいくほど「知る+ない」「分かる+ない」といった単語があるように、判断の不确实さや判断が難しいといったことを示していると解釈できる。第1軸を基準に左から、解体爆破説、衝突・火災説、中間説であり、解釈された基準からいえば、解体爆破説とする人は判断が确实であり、次いで衝突・火災説があり、そして中間説の人は判断の不确实さが表れているようである。第2軸については、上下において意見の対立を表し、従来の衝突・火災説が上に位置し、解体爆破説が図下部に位置していると捉えられる。

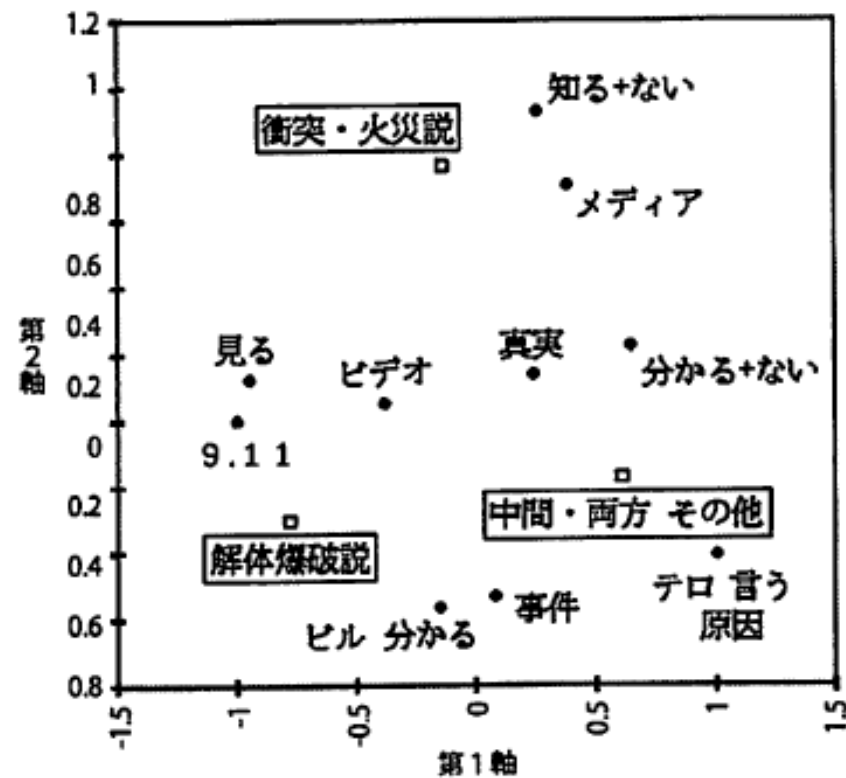


Fig. 3 DVD感想文(問4)の対応分析

10年後の記憶では、WTCビル崩壊は(6割がそう答えたように)南北タワー2棟の強烈なイメージが残っていたようで、第7ビルの崩壊は記憶から消去されていた。これは第7ビル崩落の報道が少なかったことの反映だろう。BBCニュースが第7ビル崩壊を、実際の20分前にテロップで「誤報」した映像をYouTubeで見ることが出来る。共有された記憶と客観的事実のズレを疑う必要が指摘される。DVD『9/11: 真実への青写真』は説得的で、多くの視聴者に態度変容が見られた。Bronfenbrenner(1979)のいうマクロ・システムのレベルでのメディア・リテラシー向上への興味深い映像資料である。態度変容の効果量の大きさは、マイクロ・システムのメディア・リテラシーの研究対象・実践材料としても重要である。

★文 献

How Students Changed Their Attitude
from the US Government's Official Position to "Conspiracy Theory"
A Text Mining Study on Media Literacy

Takehiko ITO Yohei OHTAKA

- Ito, T., & Iijima, Y.: Posttraumatic growth in essays by children affected by the March 11 Earthquake Disaster in Japan: A text mining study. *Journal of International Society of Life Information Science*, 31, 67-72, 2013.
- 都筑学・白井利明: 時間的展望研究ガイドブックナカニシヤ出版, 2007.